

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:)
)
Kazuhiko TOMITA)
) Group Art Unit: To Be Assigned
Serial No.: To Be Assigned)
)
Filed: December 12, 2000) Examiner: To Be Assigned
)
For: COMPUTER READABLE RECORDING)
MEDIUM RECORDED WITH ELECTRONIC)
AUTHORIZATION PROGRAM,)
ELECTRONICALLY AUTHORIZING)
DEVICE AND ELECTRONICALLY)
AUTHORIZING METHOD)

JC862 U.S. PRO
09/734192
12/12/00

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPIES OF PRIOR FOREIGN
APPLICATIONS IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

*Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231*

Sir:

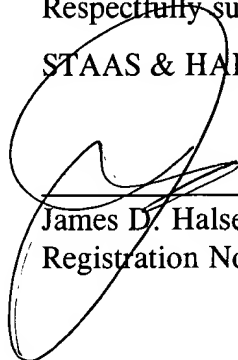
In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, Applicants submit herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Appln. No. 2000-103556
filed April 5, 2000.

It is respectfully requested that Applicants be given the benefit of the earlier foreign filing date, as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,
STAAS & HALSEY LLP

Dated: December 12, 2000

By: 
James D. Halsey, Jr.
Registration No. 22,729

700 Eleventh Street, N.W., Suite 500
Washington, D.C. 20001
(202) 434-1500

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

#2
mm
3-1601
JCS62 U.S. PRO
09/734192
12/12/00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2000年 4月 5日

出願番号
Application Number:

特願2000-103556

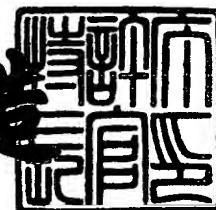
出願人
Applicant(s):

富士通株式会社

2000年 9月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3072540

【書類名】 特許願

【整理番号】 9903007

【提出日】 平成12年 4月 5日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 19/00

【発明の名称】 電子承認プログラムを記録したコンピュータ読取可能な
記録媒体、並びに、電子承認装置及び電子承認方法

【請求項の数】 10

【発明者】

【住所又は居所】 長野県長野市大字鶴賀字鍋屋田 1 4 0 3 番地 3 株式会
社富士通長野システムエンジニアリング内

【氏名】 富田 和彦

【特許出願人】

【識別番号】 000005223

【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

【識別番号】 100078330

【弁理士】

【氏名又は名称】 笹島 富二雄

【電話番号】 03-3508-9577

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009232

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9719433

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子承認プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体、並びに、電子承認装置及び電子承認方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、その承認結果をデータベースに登録する承認結果登録機能と、

承認依頼対象別及び承認依頼者別に、前記データベースに登録された過去の承認結果を参照する承認結果参照機能と、

をコンピュータに実現させるための電子承認プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 2】

前記承認結果登録機能は、前記承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由をデータベースに登録する構成である請求項 1 記載の電子承認プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 3】

前記承認結果参照機能は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における承認又は否認別の累計件数、及び、否認理由別の累計件数を参照する構成である請求項 2 記載の電子承認プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 4】

前記承認結果参照機能は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における否認理由別の割合をグラフ形式で参照する構成である請求項 2 又は請求項 3 に記載の電子承認プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体。

【請求項 5】

承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、その承認結果をデータベースに登録する承認結果登録手段と、

承認依頼対象別及び承認依頼者別に、前記データベースに登録された過去の承

認結果を参照する承認結果参照手段と、

を含んで構成されたことを特徴とする電子承認装置。

【請求項 6】

前記承認結果登録手段は、前記承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由をデータベースに登録する構成である請求項 5 記載の電子承認装置。

【請求項 7】

前記承認結果参照手段は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における承認又は否認別の累計件数、及び、否認理由別の累計件数を参照する構成である請求項 6 記載の電子承認装置。

【請求項 8】

前記承認結果参照手段は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における否認理由別の割合をグラフ形式で参照する構成である請求項 6 又は請求項 7 に記載の電子承認装置。

【請求項 9】

承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、その承認結果をデータベースに登録する承認結果登録工程と、

承認依頼対象別及び承認依頼者別に、前記データベースに登録された過去の承認結果を参照する承認結果参照工程と、

を含んで構成されたことを特徴とする電子承認方法。

【請求項 10】

前記承認結果登録工程は、前記承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由をデータベースに登録する一方、

前記承認結果参照工程は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における承認又は否認別の累計件数、及び、否認理由別の累積件数を参照する

構成である請求項 9 記載の電子承認方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、コンピュータシステム上で各種業務に関する承認又は否認を行なう電子承認技術に関し、特に、承認作業の効率及び質を向上させる技術に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年では、会社等における各種業務は、コンピュータシステムの導入により電子化されつつある。各種業務においては、担当者が作成した見積書等の書類を顧客に提出する前に、その上司が承認するといった作業が行なわれている。電子化された各種業務では、この承認作業もコンピュータ上で行なわれることとなる。

【0003】

ところで、書類の承認を行なう際に、担当者が間違え易いミスの傾向等が事前にわかっていれば、ポイントを絞って書類のチェックができるため、承認作業の効率及び質を向上させることができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の承認形態では、書類を承認又は否認した結果しか残っておらず、また、その承認結果すら残っていない場合が多い。このため、従来の承認形態をそのまま電子化したのでは、ポイントを絞った書類のチェックが行なえず、承認作業の効率及び質を向上させることは不可能であった。

【0005】

そこで、本発明は以上のような従来の問題点に鑑み、承認作業時における承認結果をデータベースに保存し、これを任意の時点で参照できるようにすることで、承認作業の効率及び質を向上させた電子承認技術を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

このため、請求項1記載の発明では、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、その承認結果をデータベースに登録する承認結果登録機能と、承認依頼対象別及び承認依頼者別に、前記データベースに登録された過去の承認結果

を参照する承認結果参照機能と、をコンピュータに実現させるための電子承認プログラムをコンピュータ読取可能な記録媒体に記録したことを特徴とする。

【0007】

ここで、「記録媒体」とは、各種情報を確実に記録でき、かつ、必要に応じて取り出し可能なものをいい、磁気テープ、磁気ディスク、磁気ドラム、ICカード、CD-ROM、DVD-ROM等が該当する。

【0008】

かかる構成によれば、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、承認結果登録機能により、その承認結果がデータベースに登録される。そして、例えば、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、承認結果参照機能により、承認依頼対象別及び承認依頼者別に、データベースに登録された過去の承認結果が参照される。このため、承認依頼対象について承認又は否認を行なう承認者は、承認依頼対象別及び承認依頼者別の過去の承認結果を参照することで、例えば、承認依頼者が間違え易いミスを容易に把握することができる。その結果、承認者は、ポイントを絞ったチェックを行なうことができ、承認作業の効率及び質が向上する。なお、承認依頼者が承認依頼対象を作成又は修正するとき、承認依頼者が承認依頼対象について承認依頼を行なうときにも、同様な作用がある。

【0009】

また、承認者が異動等の理由で変更になっても、承認依頼者及び承認依頼対象の否認傾向を容易に把握できるため、承認作業の効率及び質が低下することが抑制される。

【0010】

さらに、特定の承認依頼者及び承認依頼対象についてミスが多い場合には、過去の承認結果を参照することで、その原因が見出せることがあり、これを承認依頼者に通知して、問題の是正を行なうこともできる。

【0011】

以上のような作用を通して、承認処理の回数が減り、承認作業に要する時間及びコストが削減される。

一方、このような電子承認を実現するための承認結果登録機能及び承認結果参照機能がコンピュータ読取可能な記録媒体に記録されれば、一般的なコンピュータを利用して、本発明に係る電子承認装置を容易に構築することが可能となる。

【 0 0 1 2 】

請求項 2 記載の発明では、前記承認結果登録機能は、前記承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由をデータベースに登録する構成であることを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

かかる構成によれば、データベースには、承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由が登録される。このため、承認依頼者及び承認依頼対象について、過去の承認又は否認傾向が容易に把握でき、効率的な承認作業が可能となる。

【 0 0 1 4 】

請求項 3 記載の発明では、前記承認結果参照機能は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における承認又は否認別の累計件数、及び、否認理由別の累計件数を参照する構成であることを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

かかる構成によれば、データベースに登録された承認結果を参照する際、所定期間における承認又は否認別の累積件数、及び、否認理由別の累積件数が参照される。このため、過去の承認又は否認傾向が累積件数を介して把握され、どのような理由によって否認される傾向が強いか容易に把握される。

【 0 0 1 6 】

請求項 4 記載の発明では、前記承認結果参照機能は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における否認理由別の割合をグラフ形式で参照する構成であることを特徴とする。

【 0 0 1 7 】

かかる構成によれば、所定期間における否認理由別の割合がグラフ形式で参照されるため、否認傾向が一目で把握される。

請求項 5 記載の発明では、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに

、その承認結果をデータベースに登録する承認結果登録手段と、承認依頼対象別及び承認依頼者別に、前記データベースに登録された過去の承認結果を参照する承認結果参照手段と、を含んで電子承認装置を構成したことを特徴とする。

【 0 0 1 8 】

かかる構成によれば、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、承認結果登録手段により、その承認結果がデータベースに登録される。そして、例えば、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、承認結果参照手段により、承認依頼対象別及び承認依頼者別に、データベースに登録された過去の承認結果が参照される。このため、承認依頼対象について承認又は否認を行なう承認者は、承認依頼対象別及び承認依頼者別の過去の承認結果を参照することで、例えば、承認依頼者が間違え易いミスを容易に把握することができる。その結果、承認者は、ポイントを絞ったチェックを行なうことができ、承認作業の効率及び質が向上する。なお、承認依頼者が承認依頼対象を作成又は修正するとき、承認依頼者が承認依頼対象について承認依頼を行なうときにも、同様な作用がある。

【 0 0 1 9 】

また、承認者が異動等の理由で変更になっても、承認依頼者及び承認依頼対象の否認傾向を容易に把握できるため、承認作業の効率及び質が低下することが抑制される。

【 0 0 2 0 】

さらに、特定の承認依頼者及び承認依頼対象についてミスが多い場合には、過去の承認結果を参照することで、その原因が見出せることがあり、これを承認依頼者に通知して、問題の是正を行なうこともできる。

【 0 0 2 1 】

以上のような作用を通して、承認処理の回数が減り、承認作業に要する時間及びコストが削減される。

請求項 6 記載の発明では、前記承認結果登録手段は、前記承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由をデータベースに登録する構成であることを特徴とする。

【 0 0 2 2 】

かかる構成によれば、データベースには、承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由が登録される。このため、承認依頼者及び承認依頼対象について、過去の承認又は否認傾向が容易に把握でき、効率的な承認作業が可能となる。

【 0 0 2 3 】

請求項 7 記載の発明では、前記承認結果参照手段は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における承認又は否認別の累計件数、及び、否認理由別の累計件数を参照する構成であることを特徴とする。

【 0 0 2 4 】

かかる構成によれば、データベースに登録された承認結果を参照する際、所定期間における承認又は否認別の累積件数、及び、否認理由別の累積件数が参照される。このため、過去の承認又は否認傾向が累積件数を介して把握され、どのような理由によって否認される傾向が強いかが容易に把握される。

【 0 0 2 5 】

請求項 8 記載の発明では、前記承認結果参照手段は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における否認理由別の割合をグラフ形式で参照する構成であることを特徴とする。

【 0 0 2 6 】

かかる構成によれば、所定期間における否認理由別の割合がグラフ形式で参照されるため、否認傾向が一目で把握される。

請求項 9 記載の発明では、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、その承認結果をデータベースに登録する承認結果登録工程と、承認依頼対象別及び承認依頼者別に、前記データベースに登録された過去の承認結果を参照する承認結果参照工程と、を含んで電子承認方法を構成したことを特徴とする。

【 0 0 2 7 】

かかる構成によれば、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、承認結果登録工程により、その承認結果がデータベースに登録される。そして、例えば、承認依頼対象について承認又は否認を行なうときに、承認結果参照工程に

より、承認依頼対象別及び承認依頼者別に、データベースに登録された過去の承認結果が参照される。このため、承認依頼対象について承認又は否認を行なう承認者は、承認依頼対象別及び承認依頼者別の過去の承認結果を参照することで、例えば、承認依頼者が間違え易いミスを容易に把握することができる。その結果、承認者は、ポイントを絞ったチェックを行なうことができ、承認作業の効率及び質が向上する。なお、承認依頼者が承認依頼対象を作成又は修正するとき、承認依頼者が承認依頼対象について承認依頼を行なうときにも、同様な作用がある。

【 0 0 2 8 】

また、承認者が異動等の理由で変更になっても、承認依頼者及び承認依頼対象の否認傾向を容易に把握できるため、承認作業の効率及び質が低下することが抑制される。

【 0 0 2 9 】

さらに、特定の承認依頼者及び承認依頼対象についてミスが多い場合には、過去の承認結果を参照することで、その原因が見出せることがあり、これを承認依頼者に通知して、問題の是正を行なうこともできる。

【 0 0 3 0 】

以上のような作用を通して、承認処理の回数が減り、承認作業に要する時間及びコストが削減される。

請求項 1 0 記載の発明では、前記承認結果登録工程は、前記承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由をデータベースに登録する一方、前記承認結果参照工程は、前記データベースに登録された過去の承認結果について、所定期間における承認又は否認別の累計件数、及び、否認理由別の累積件数を参照する構成であることを特徴とする。

【 0 0 3 1 】

かかる構成によれば、データベースには、承認依頼対象について、承認又は否認の結果、及び、否認したときにはその否認理由が登録される。一方、データベースに登録された承認結果を参照する際には、所定期間における承認又は否認別の累積件数、及び、否認理由別の累積件数が参照される。このため、承認依頼者

及び承認依頼対象について、過去の承認又は否認傾向が容易に把握でき、効率的な承認作業が可能となる。また、過去の承認又は否認傾向が累積件数を介して把握され、どのような理由によって否認される傾向が強いかが容易に把握される。

【0032】

【発明の実施の形態】

以下、添付された図面を参照して本発明を詳述する。

電子承認装置10は、図1に示すように、少なくとも1台の端末20（20a～20f）と、承認情報データベース（以下「承認情報DB」という）30と、を含んで構成される。端末20は、少なくとも、中央処理装置（CPU）、メモリ及び表示装置を備えたPC（Personal Computer）やWS（Work Station）等から構成され、メモリにロードされたプログラムに従って各種処理を行なう。承認情報DB30には、図2に示すように、承認依頼テーブル40と、承認依頼物件テーブル50と、が承認情報として蓄積される。

【0033】

なお、端末20では、承認結果登録機能、承認結果登録手段、承認結果登録工程、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程が、ソフトウェアによって実現されている。

【0034】

承認依頼テーブル40は、図2（A）に示すように、依頼番号と、対象分類コードと、件名と、依頼部署コードと、依頼者コードと、依頼日と、承認者コードと、承認／否認日と、否認理由と、その他理由と、を含んで構成される。依頼番号は、承認依頼対象を特定する情報であって、各承認依頼対象毎に付されたユニークな整数により記述される。対象分類コードは、承認依頼対象が何であるかを特定する情報であって、例えば、「M01」は見積書を表わすように、各承認依頼対象毎に付されたユニークな文字列により記述される。件名は、承認依頼対象名を表わした情報であって、任意の文字列により記述される。依頼部署コードは、承認依頼者が所属する部署（例えば、営業部）を特定する情報であって、各部署毎に付されたユニークな文字列により記述される。依頼者コードは、承認依頼者を特定する情報であって、各承認依頼者毎に付されたユニークな文字列により

記述される。依頼日は、承認を依頼した日付を特定する情報であって、例えば、システムで用いられている日付表現形式により記述される。承認者コードは、承認依頼対象をチェックして承認又は否認する承認者を特定する情報であって、各承認者毎に付されたユニークな文字列により記述される。承認／否認日は、承認依頼対象を承認又は否認した日付を特定する情報であって、依頼日と同様に、例えば、システムで用いられている日付表現形式により記述される。なお、承認／否認日が設定されていない場合には、承認依頼対象の承認行為が行なわれていないことを表している。否認理由は、承認依頼対象がどのような理由によって否認されたかを特定する情報であって、0又は1で表わされるビット列により記述される。その他理由は、一般的に分類可能な否認理由に属さない否認理由であることを表わす情報であって、任意の文字列により記述される。

【 0 0 3 5 】

ここで、否認理由は、図3に示すように、対象分類コード毎に、桁、名称及びその他コードが設定された否認理由設定テーブル60により、任意に設定することができる。即ち、図示しない否認理由設定画面において、各対象分類コード毎に、否認理由を表わすビット列の先頭からの位置を特定する桁、拒絶理由を表わす任意の名称及びその他理由が付随することを表わすその他コードを指定すると、自動的に否認理由設定テーブル60が作成される。そして、過去の承認実績を表示するときに、否認理由設定テーブル60を読み込んで解析することで、承認依頼対象別に任意の否認理由が表示される。

【 0 0 3 6 】

一方、承認依頼物件テーブル50は、図2(B)に示すように、依頼番号と、物件名と、参照フラグと、ファイル所在と、ファイル名と、を含んで構成される。依頼番号は、承認依頼テーブル40に含まれる依頼番号と同一の情報である。物件名は、承認依頼物件及びその付属物件を特定する情報であって、任意の文字列により夫々記述される。参照フラグは、承認依頼物件であるか又はその付属物件であるかを特定する情報であって、0(承認依頼物件)又は1(付属物件)で表わされるビットにより記述される。ファイル所在は、承認依頼物件又は付属物件が保存されている場所を特定する情報であって、任意の文字列により記述され

る。ファイル名は、承認依頼物件又は付属物件を特定する情報であって、任意の文字列により記述される。

【0037】

従って、依頼番号を指定すると、依頼番号をキーとして承認依頼物件テーブル50が検索され、承認依頼物件及びその付属物件が何であるかを特定することができる。また、後述するように、承認依頼物件又は付属物件の実体を見たいときには、承認依頼物件テーブル50に設定されたファイル所在及びファイル名に基づいて、各物件に適したアプリケーションが自動的に起動する。

【0038】

図4は、電子承認装置10を用いて、見積書等の承認対象を承認する業務の概要を示す。

担当者が承認対象を作成又は修正するときには、承認情報DB30に蓄積されている過去の否認情報が参照される。過去の否認情報には、各担当者毎に、過去にどのような理由（例えば、計算ミス等）で承認対象が否認されたかを累計した情報が含まれる。担当者が否認情報を参照すると、自分が間違え易いミスが容易に把握でき、これに注意を払うことで、質の高い承認対象を作成又は修正することができる。

【0039】

また、担当者が承認依頼を行なうときにも、過去の否認情報が参照される。この場合には、承認対象に対して再度のチェックが行なわれることとなり、ミスの少ない承認対象に対して承認依頼を行なうことができる。そして、承認対象のチェックが完了したら、承認依頼情報が承認情報DB30に登録される。なお、担当者が承認依頼を行なったことは、例えば、電子メールを介して承認者に通知される。

【0040】

承認者が承認対象を承認又は否認するときには、承認情報DB30に蓄積されている過去の否認情報が参照される。承認者が否認情報を参照すると、承認依頼を行なった担当者が過去にどのような理由で否認されているかが容易に把握でき、否認の要因となっている項目を重点的にチェックすることで、承認又は否認を

行なう際の効率が向上する。そして、承認対象の承認又は否認を行なうときには、承認結果たる承認情報又は否認情報が承認情報DB30に登録される。この承認結果が、前述したように、承認対象の作成又は修正、承認依頼及び次回の承認のときに参照される。

【0041】

承認情報DB30に登録されている過去の否認情報は、任意の時点においても参照される。即ち、担当者が過去の否認情報を参照してもミスが改善されない場合には、例えば、承認者が過去の否認情報に基づいて様々な予防策を検討する。予防策としては、担当者や承認対象に限定される原因があれば、担当者に改善すべきことを通知して、問題の是正を行なうことができる。

【0042】

次に、かかる電子承認装置10における処理内容について説明する。

承認対象の作成又は修正、及び、問題の是正において、過去の否認情報を参照するときには、図5に示すような承認実績参照画面70が表示される。承認実績参照画面70は、部署名指定部72と、担当者名指定部74と、承認対象指定部76と、「実行」ボタン78と、「取消」ボタン80と、を含んで構成される。

【0043】

なお、承認実績参照画面70は、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程として作用する。

部署名指定部72では、承認依頼者たる担当者が所属する部署名が指定される。担当者名指定部74では、承認依頼者たる担当者名が指定される。承認対象指定部76では、承認対象たる見積書等の名称が指定される。ここで、部署名指定部72、担当者名指定部74及び承認対象指定部76は、夫々、ドロップダウン形式のリストボックスにより構築され、直接文字列を入力する他、リストに表示されたものから選択することができる。

【0044】

そして、承認対象指定部76に承認対象たる見積書等の名称が入力された後、「実行」ボタン78が押されると、図6に示すように、承認対象に応じた承認実績表示部82が拡張表示される。承認実績表示部82は、期間指定部82aと、

集計結果表示部 8 2 b と、グラフ表示部 8 2 c と、を含んで構成される。期間指定部 8 2 a では、承認実績を累計する期間（以下「指定期間」という）がラジオボタンを介して指定される。集計結果表示部 8 2 b では、担当者及び担当者が所属する部署別に、指定期間における承認件数、否認件数及び各否認理由の累計件数が夫々表示される。グラフ表示部 8 2 c には、指定期間における否認理由の割合を表わした円グラフが表示される。なお、本実施形態では、否認理由の割合は、円グラフで表わされているが、棒グラフ、折れ線グラフ等で表わすようにしてもよい。

【0045】

図 7 は、承認実績参照画面 7 0 における処理内容を説明したフローチャートである。なお、図 7 に示すフローチャートが、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程に該当する。

【0046】

ステップ 1（図では「S 1」と略記する。以下同様）では、初期画面として、図 5 に示す承認実績参照画面 7 0 が表示される。部署名指定部 7 2 及び担当者名指定部 7 4 には、デフォルトとして、端末 2 0 の操作者が所属する部署名及び操作者名が表示され、承認対象指定部 7 6 には、承認対象が未指定状態で表示される。ここで、端末 2 0 の操作者名等は、例えば、各端末においてログインしたときの情報に基づいて決定される。

【0047】

ステップ 2 では、オペレーティングシステム（以下「OS」という）より通知されるイベントメッセージに基づいて、処理内容に応じた分岐処理が行なわれる。即ち、「実行」ボタン 7 8 が押されたとき、又は、期間指定部 8 2 a が操作されて指定期間が変更されたときには、ステップ 3 へと進み、「取消」ボタン 8 0 が押されたときには、承認実績表示画面 7 0 における処理が終了される。

【0048】

ステップ 3 では、承認情報 DB 3 0 を検索する検索条件が取得される。即ち、図 5 に示す承認実績参照画面 7 0 では、部署名指定部 7 2、担当者名指定部 7 4 及び承認対象指定部 7 6 から部署名、担当者名及び承認対象が夫々取得される。

一方、図6に示す承認実績参照画面70では、部署名、担当者名及び承認対象に加えて、期間指定部82aから指定期間が取得される。

【0049】

ステップ4では、取得された検索条件をキーとして承認情報DB30が検索され、検索条件に合致する承認情報が取得される。

ステップ5では、取得された承認情報に基づいて、担当者及び部署における承認件数、否認件数及び否認理由別の累計件数が夫々集計される。ここで、承認件数及び否認件数は、図2(A)に示す承認依頼テーブル40の否認理由に基づいて、全ビットが0であれば「承認」、いずれか1つのビットが1であれば「否認」と判断され、その件数を累計することで集計される。一方、否認理由別の件数は、否認理由のビットが1となっているものを個別に累計することで集計される。

【0050】

ステップ6では、集計された集計結果に基づいて、集計結果表示部82bに集計結果が表示されると共に、グラフ表示部82cに否認理由の割合を表わした円グラフが表示される。ここで、集計結果表示部82cでは、図3に示す否認理由設定テーブル60に基づいて表示項目が表示される。

【0051】

以上説明したステップ1～ステップ6の処理によれば、操作者が指定した部署名、担当者名、承認対象及び指定期間を検索条件として承認情報DB30が検索され、検索条件に合致する承認情報が取得される。そして、取得された承認情報が集計され、その集計結果が承認実績として表示される。このとき、操作者が指定期間等を変更すると、その変更に応じた承認実績が表示される。

【0052】

従って、承認対象を作成又は修正するときには、過去の承認実績を容易に参照できるようになり、ミスの多い項目に注意を払うことで、形式的なミスが少ない承認対象の作成又は修正を行なうことができる。一方、問題の是正を行なうときには、担当者が間違え易いミスを容易に把握できるため、これを担当者等に知らせて注意を喚起することができる。そして、担当者がミスの多い項目に注意を払

うことで、形式的なミスが少ない承認対象の作成が可能となる。

【0053】

このように、形式的なミスが少ない承認対象が作成されると、これをチェックして承認又は否認する承認者は、実体的な内容のみをチェックするだけでよく、承認作業の効率及び質を向上することができる。

【0054】

承認依頼において、過去の否認情報を参照するときには、図8に示すような承認依頼処理画面90が表示される。承認依頼処理画面90は、承認依頼内容指定部92と、否認内容表示部94と、承認実績表示部96と、「実行」ボタン98と、「取消」ボタン100と、を含んで構成される。

【0055】

なお、承認依頼処理画面90は、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程として作用する。

承認依頼内容指定部92は、承認対象を特定する機能を提供し、承認依頼件名指定部92aと、承認依頼者名指定部92bと、承認者名指定部92cと、コメント入力部92dと、承認対象指定部92eと、「否認物件取り込み」ボタン92fと、「承認対象の指定」ボタン92gと、を含んで構成される。承認依頼件名指定部92aでは、承認対象の件名が指定される。承認依頼者名指定部92bでは、承認依頼者名が指定される。承認者名指定部92cでは、承認対象を承認又は否認する承認者名が指定される。コメント入力部92dでは、必要に応じて、承認者に対して通知するコメントが入力される。承認対象指定部92eでは、承認対象物件及びその付属物件が指定される。承認対象物件及び付属物件は、図2(B)に示す承認依頼物件テーブル50に登録される。

【0056】

否認内容表示部94では、承認依頼内容指定部92により特定される承認対象に関して、前回の承認で否認された否認内容が表示される。このとき、その他の項目では、承認者により入力されたコメントが表示される。なお、承認対象の承認依頼が初めてである場合には、否認内容表示部92をグレー表示にしたり、非表示にしたり、各否認理由を「-」で表わしたりして、その旨が分かるようにし

てもよい。

【0057】

承認実績表示部96は、前述した承認実績参照画面82（図6参照）と同様であるので、その説明は省略する。

図9は、承認依頼処理画面90における処理内容を説明したフローチャートである。なお、図9に示すフローチャートが、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程に該当する。

【0058】

ステップ11では、図8に示す承認依頼処理画面90が表示される。初期状態の承認依頼内容指定部92においては、デフォルトの承認依頼者名として、端末20の操作者名が表示され、他の項目は未指定状態で表示される。この場合、否認内容表示部94及び承認実績表示部96は、依頼対象が未確定であるため、夫々、その内容は表示されない。

【0059】

ステップ12では、OSより通知されるイベントメッセージに基づいて、処理内容に応じた分岐処理が行なわれる。即ち、「否認物件取り込み」ボタン92fが押されたときには、ステップ13へと進み、「承認対象の指定」ボタン92gが押されたときには、ステップ17へと進み、「実行」ボタン98が押されたときには、ステップ20へと進み、「取消」ボタン100が押されたときには、承認依頼処理画面90における処理が終了される。

【0060】

ステップ13～ステップ16では、過去に否認された承認対象について再度承認依頼するために、承認情報DB30に登録されている複数の承認対象の中から、否認された承認対象を選択する作業が行なわれる。即ち、ステップ13では、承認依頼内容指定部192から承認依頼者名が取得される。ステップ14では、取得された承認依頼者名を検索条件として承認情報DB30が検索され、過去に否認された否認物件名が取得される。ステップ15では、図10に示すように、取得された否認物件名がリスト形式で一覧表示される否認物件一覧画面110が表示される。

【 0 0 6 1 】

否認物件一覧画面 1 1 0 は、物件名表示部 1 1 2 と、「取り込み」ボタン 1 1 4 と、「取消」ボタン 1 1 6 と、を含んで構成される。そして、否認物件一覧画面 1 1 0 において否認物件を選択するには、物件名表示部 1 1 2 に表示されている否認物件の中から所望の否認物件をマウス等を介して指定し、「取り込み」ボタン 1 1 4 を押す。一方、否認物件の選択を中止するには、「取消」ボタン 1 1 6 を押す。

【 0 0 6 2 】

ステップ 1 6 では、選択された承認対象に基づいて、承認依頼内容指定部 1 9 2 の承認依頼件名及び承認対象が更新される。ここで、承認対象指定部 9 2 e の内容は、承認情報 DB 3 0 に登録されている承認依頼物件テーブル 5 0 (図 2 (B) 参照) を検索することで決定される。その後、ステップ 1 2 へと戻り、操作内容に応じた処理が続行される。

【 0 0 6 3 】

ステップ 1 7 ～ステップ 1 9 では、「承認対象の指定」ボタン 9 2 g が押されたときの処理が行なわれる。即ち、新たな承認対象について承認依頼をするために、承認情報 DB 3 0 に登録されている承認対象の中から、承認対象を選択する作業が行なわれる。具体的には、ステップ 1 7 では、承認依頼内容指定部 9 2 から承認依頼者名が取得される。ステップ 1 8 では、取得された承認依頼者名を検索条件として承認情報 DB 3 0 が検索され、新規の承認対象である未承認物件名が取得される。ステップ 1 9 では、取得された未承認物件名がリスト形式で一覧表示される未承認物件一覧画面が表示される。未承認物件一覧画面は、図 1 0 に示す否認物件一覧画面 1 1 0 と略同様な構成であるので、その図面及び説明は省略することとする。なお、承認対象は、未承認物件一覧画面において、追加、変更又は削除することができる。その後、ステップ 1 6 に進み、選択された未承認物件名に基づいて、承認依頼物件名及び承認対象が更新される。

【 0 0 6 4 】

ステップ 2 0 ～ステップ 2 4 では、「実行」ボタン 9 8 が押されたときの処理が行なわれる。即ち、承認依頼内容指定部 9 2 において指定された項目を検索条

件として承認情報DB30が検索され、前回の否認内容及び過去の承認実績が更新される。具体的には、ステップ20では、承認依頼内容指定部192から承認依頼件名、承認依頼者名及び承認者名が取得される。ステップ21では、取得された承認依頼件名等により特定される承認対象の確認（チェック）が行なわれる。即ち、いわゆる出口関数を用い、必要と思われる事前チェックプログラムを呼出すことで、承認対象が適正なものであるか否かが判定される。そして、承認対象が適正なものでなければ、その旨を報知するメッセージボックス等が表示される。ステップ22では、取得された承認依頼件名等を検索条件として承認情報DB30が検索され、検索条件に合致する承認情報が取得される。ステップ23では、ステップ5と同様に、担当者及び部署における承認件数、否認件数及び否認理由別の累計件数が夫々集計される。ステップ24では、取得された承認情報に基づいて、否認内容表示部94に前回の否認内容が表示されると共に、集計された集計結果に基づいて、承認実績表示部96に集計結果が表示される。その後、ステップ12に戻り、操作内容に応じた処理が続行される。

【0065】

以上説明したステップ11～ステップ24の処理によれば、承認依頼者たる担当者が承認対象の承認を依頼するときに、前回の否認理由及び過去の承認実績を参照することができる。このため、自分が間違え易いミスを把握することができる。この場合、承認者は、実体的な内容のみを重点的にチェックすればよく、承認効率及び質を向上することができる。

【0066】

なお、図8に示す承認依頼処理画面90では、承認依頼物件名を指定する際に、「否認物件取り込み」ボタン92f又は「承認対象の指定」ボタン92gを押して処理を行なったが、承認依頼件名指定部92aに承認依頼件名を直接入力するようにしてもよい。

【0067】

承認において、承認者が過去の否認情報を参照するときには、図11に示すような承認処理画面120が表示される。承認処理画面120は、承認依頼内容表

示部 122 と、承認結果入力部 124 と、否認内容表示部 126 と、承認実績表示部 128 と、「実行」ボタン 130 と、「取消」ボタン 132 と、を含んで構成される。

【0068】

なお、承認処理画面 120 は、承認結果登録機能、承認結果登録手段、承認結果登録工程、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程として作用する。

【0069】

承認依頼内容表示部 122 は、承認対象を確認する機能を提供し、承認依頼件名表示部 122a と、承認依頼者名表示部 122b と、依頼回数表示部 122c と、コメント表示部 122d と、承認対象表示部 122e と、を含んで構成される。承認依頼件名表示部 122a 及び承認依頼者表示部 122b には、承認依頼件名及び承認依頼者名が夫々表示される。依頼回数表示部 122c には、承認対象が何回目の承認依頼であるかが表示される。依頼回数は、図 2 (A) に示す承認依頼テーブル 40 の依頼番号を解析することで、同一の依頼番号がいくつあるかを計数して特定される。コメント表示部 122d には、図 8 に示す承認依頼処理画面 90 において、承認依頼者が入力したコメントが表示される。承認対象表示部 122e には、承認依頼物件及びその付属物件が表示され、例えば、これをマウス等でダブルクリックすることで、各物件のフォーマットに適合したアプリケーションが起動し、その実体を確認することができる。

【0070】

承認結果入力部 124 は、承認者が承認対象をチェックした結果を入力する機能を提供し、承認結果として承認又は否認が入力されると共に、否認をした場合には、その理由が入力される。ここで、その他の理由に関しては、承認者のコメントを入力するコメント入力部 124a が用意されている。

【0071】

否認内容表示部 126 及び承認実績表示部 128 は、前述した承認実績参照画面 70 (図 6 参照) 及び承認依頼処理画面 90 (図 8 参照) と同様であるので、その説明は省略する。

【0072】

図12は、承認処理画面120における処理内容を説明したフローチャートである。

ステップ31では、OSより通知されるイベントメッセージに基づいて、処理内容に応じた分岐処理が行なわれる。即ち、承認処理画面120を初期表示するとき、又は、指定期間が変更されたときには、ステップ32へと進み、「実行」ボタン130が押されたときには、ステップ35へと進み、「取消」ボタン132が押されたときには、承認処理画面120における処理が終了される。

【0073】

ステップ32～ステップ34では、承認処理画面120の表示又は更新処理が行なわれる。即ち、ステップ32では、承認処理を開始するときに指定した承認依頼者名及び承認依頼件名を検索条件として承認情報DB30が検索され、承認依頼物件に関する承認情報が取得される。ステップ33では、取得された承認情報に基づいて、依頼対象に関する依頼回数が計数されると共に、指定期間（初期表示のときはデフォルト期間）において、担当者及び部署における承認件数、否認件数及び否認理由別の累計件数が夫々集計される。ステップ34では、承認依頼内容、前回の否認内容及び過去の承認実績が表示される。ここで、承認依頼対象が新規な依頼である場合には、前回の否認内容は表示されない。その後、ステップ31へと戻り、操作内容に応じた処理が続行される。

【0074】

なお、ステップ31～ステップ34の処理が、承認結果参照機能、承認結果参照手段及び承認結果参照工程に該当する。

ステップ35では、「実行」ボタン130が押されたときの処理が行なわれる。即ち、承認依頼者が承認対象をチェックして、承認又は否認することを決定したときには、承認結果入力部124にその結果が入力される。そして、承認者が「実行」ボタン130を押すと、承認結果入力部124から承認結果が取得され、これが図2に示す形式で承認情報DB30に登録される。

【0075】

なお、ステップ35の処理が、承認結果登録機能、承認結果登録手段及び承認

結果登録工程に該当する。

以上説明したステップ 3 1 ～ステップ 3 5 の処理によれば、承認者は、承認対象に関する過去の承認実績を参照することができ、承認依頼者が間違え易いミス を容易に把握できる。このため、承認者は、ポイントを絞ったチェックを行なうことができ、効率的な承認作業が行なわれると共に、その質を向上することができる。そして、承認結果たる承認又は否認情報は、承認情報 DB 3 0 に登録され、次回の承認対象作成又は修正、承認依頼及び承認時に参照される。

【 0 0 7 6 】

なお、電子承認装置 1 0 において参照される否認情報は、承認依頼対象の作成又は修正、承認依頼、承認及び問題の是正だけではなく、ISO 9 0 0 1 の予防措置の足がかりにもなる。

【 0 0 7 7 】

また、以上説明した電子承認装置 1 0 は、図 1 3 に示すように、クライアント／サーバモデルのコンピュータシステム上に構築してもよい。また、承認情報 DB 3 0 は、例えば、クライアント 1 4 0 とサーバ 1 5 0 とが分散して持つ分散ファイルシステム上に構築してもよい。

【 0 0 7 8 】

このような機能を実現するプログラムを、例えば、磁気テープ、磁気ディスク、磁気ドラム、IC カード、CD-ROM、DVD-ROM 等のコンピュータ読取可能な記録媒体に記録しておけば、本発明に係る電子承認プログラムを市場に流通させることができる。そして、かかる記録媒体を取得した者は、一般的なコンピュータを利用して、本発明に係る電子承認装置を容易に構築することができる。

【 0 0 7 9 】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項 1 記載の発明によれば、承認依頼対象別及び承認依頼者別の過去の承認結果を参照することで、承認依頼者が間違え易いミスを容易に把握することができ、承認作業の効率及び質が向上する。また、承認者が異動等の理由で変更になっても、承認依頼者及び承認依頼対象の否認傾向を容易に

把握できるため、承認作業の効率及び質が低下することが抑制される。さらに、特定の承認依頼者及び承認依頼対象についてミスが多い場合には、過去の承認結果を参照することで、その原因が見出せることがあり、これを承認依頼者に通知して、問題の是正を行なうこともできる。以上のような作用を通して、承認処理の回数が減り、承認作業に要する時間及びコストを削減することができる。

【0080】

一方、このような電子承認を実現するための承認結果登録機能及び承認結果参照機能をコンピュータ読取可能な記録媒体に記録すれば、一般的なコンピュータを利用して、本発明に係る電子承認装置を容易に構築することができる。

【0081】

請求項2又は請求項6に記載の発明によれば、承認依頼者及び承認依頼対象について、過去の承認又は否認傾向が容易に把握でき、効率的な承認作業を行なうことができる。

【0082】

請求項3又は請求項7に記載の発明によれば、過去の承認又は否認傾向が累積件数を介して把握され、どのような理由によって否認される傾向が強いかを容易に把握することができる。

【0083】

請求項4又は請求項8に記載の発明によれば、所定期間における否認理由別の割合がグラフ形式で参照されるため、否認傾向を一目で把握することができる。

請求項5又は請求項9に記載の発明によれば、承認依頼対象別及び承認依頼者別の過去の承認結果を参照することで、承認依頼者が間違え易いミスを容易に把握することができ、承認作業の効率及び質が向上する。また、承認者が異動等の理由で変更になっても、承認依頼者及び承認依頼対象の否認傾向を容易に把握できるため、承認作業の効率及び質が低下することが抑制される。さらに、特定の承認依頼者及び承認依頼対象についてミスが多い場合には、過去の承認結果を参照することで、その原因が見出せることがあり、これを承認依頼者に通知して、問題の是正を行なうこともできる。以上のような作用を通して、承認処理の回数が減り、承認作業に要する時間及びコストを削減することができる。

【 0 0 8 4 】

請求項 1 0 記載の発明によれば、承認依頼者及び承認依頼対象について、過去の承認又は否認傾向が容易に把握でき、効率的な承認作業を行なうことができる。また、過去の承認又は否認傾向が累積件数を介して把握され、どのような理由によって否認される傾向が強いかを容易に把握することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る電子承認装置の一例を示す全体構成図である。

【図 2】

承認情報データベースに蓄積される承認情報を示し、（A）は承認依頼テーブル、（B）は承認依頼物件テーブルの説明図である。

【図 3】

否認理由が設定される否認理由設定テーブルの説明図である。

【図 4】

電子承認装置を用いて行なわれる承認業務の概要の説明図である。

【図 5】

初期状態の承認実績参照画面の説明図である。

【図 6】

承認実績が拡張表示された承認実績参照画面の説明図である。

【図 7】

承認実績参照画面における処理内容を説明するフローチャートである。

【図 8】

承認依頼処理画面の説明図である。

【図 9】

承認依頼処理画面における処理内容を説明するフローチャートである。

【図 1 0】

否認物件一覧画面の説明図である。

【図 1 1】

承認処理画面の説明図である。

【図 1 2】

承認処理画面における処理内容を説明するフローチャートである。

【図 1 3】

本発明に係る電子承認装置の他の例を示す全体構成図である。

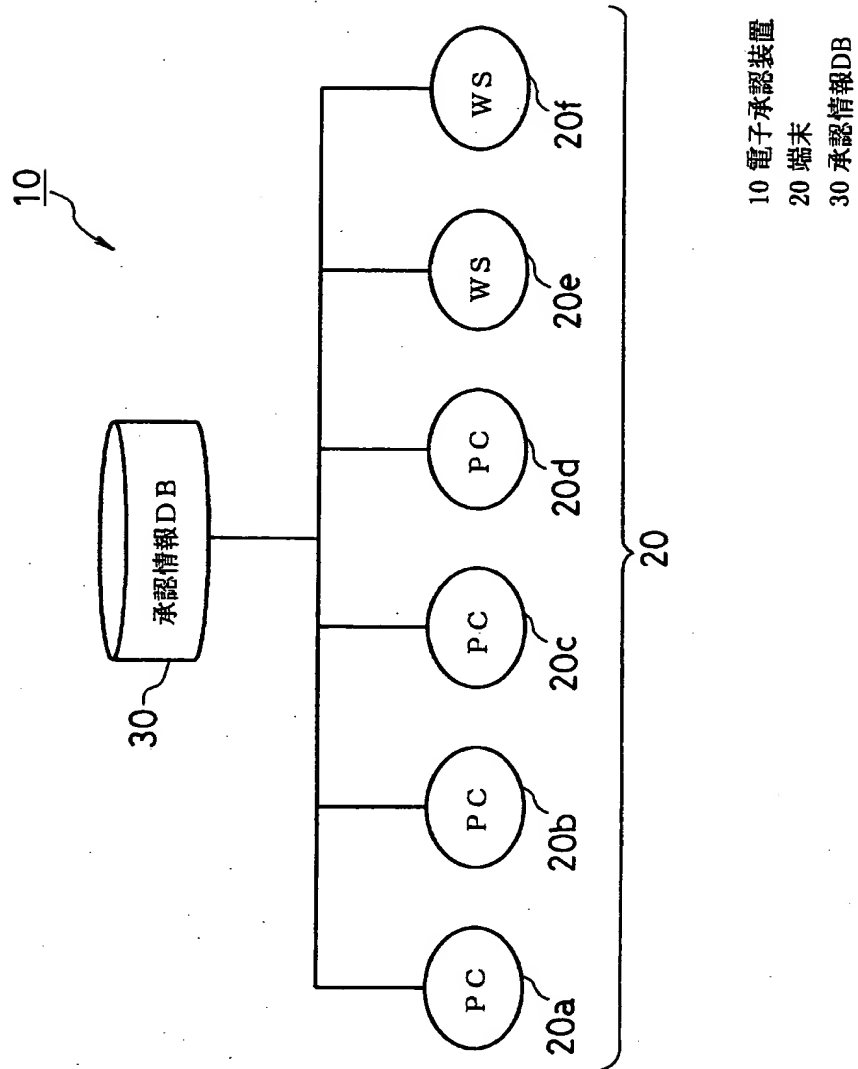
【符号の説明】

- 1 0 . . . 電子承認装置
- 2 0 . . . 端末
- 3 0 . . . 承認情報 D B
- 7 0 . . . 承認実績参照画面
- 9 0 . . . 承認依頼処理画面
- 1 1 0 . . . 承認処理画面
- 1 4 0 . . . クライアント
- 1 5 0 . . . サーバ

【書類名】

図面

【図 1】



【図 2】

(A) 40

依頼番号	対象分類コード	件名	依頼部署コード	依頼者コード	依頼日
123	M01	A工業向けB装置の見積り	1208	1208	1999/12/06
124	M03	X大学向けY装置の改造	1163	1163	1999/12/07
123	M01	A工業向けB装置の見積り	1208	1208	1999/12/08

承認者コード	承認/否認日	否認理由	その他理由
0913	1999/12/07	0000100100000000	顧客担当者名変更
0801			
0913	1999/12/09	0000000000000000	

(B) 50

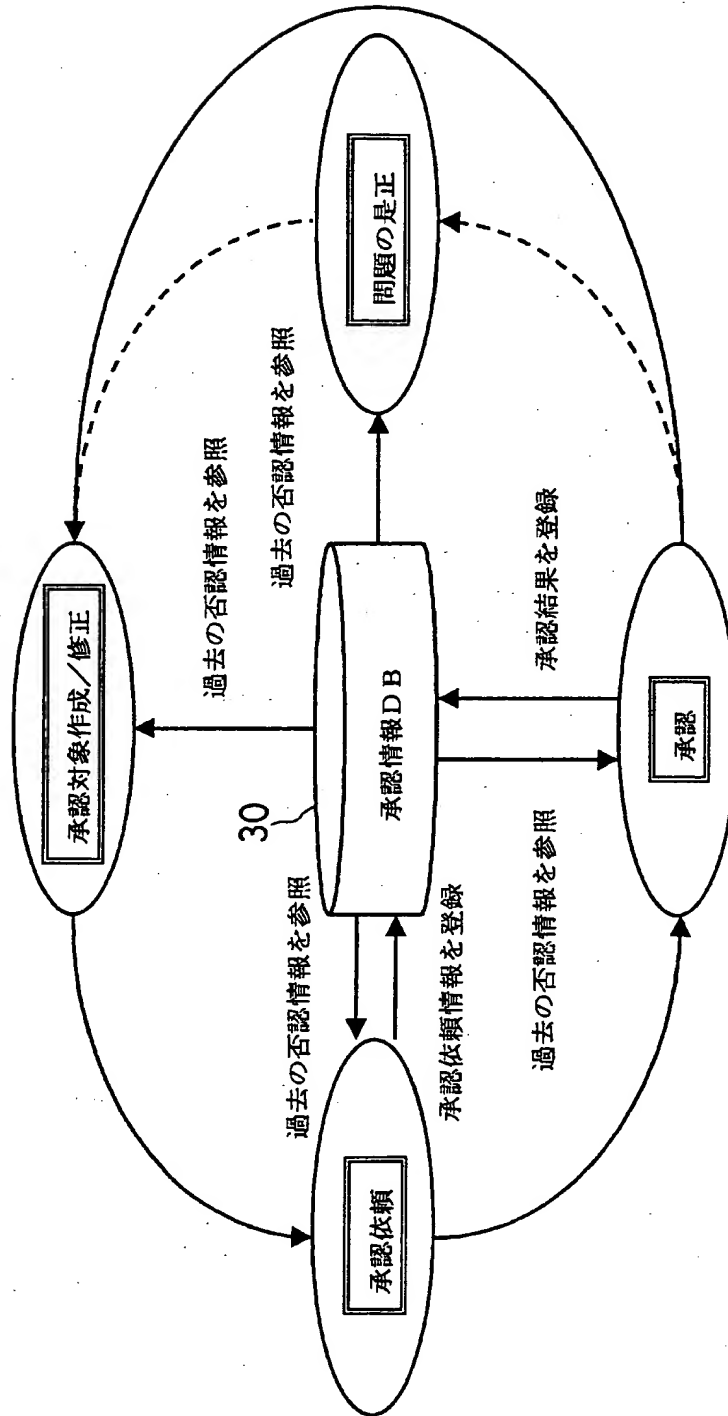
依頼番号	物件名	参照フラグ	ファイル所在	ファイル名
123	御見積書	0	¥¥pc001¥share002	AIC.doc
123	顧客要求仕様書	1	¥¥pc001¥share002	AIC-yokyu.tif
123	納入スケジュール	1	¥¥pc001¥share002	AIC-schedule.xls

【図 3】

60

対象分類コード	桁	名称	その他コード
M01	1	見積金額再検討	0
M01	2	納期再検討	0
M01	3	計算ミス	0
M01	4	製品番号／型番誤り	0
M01	5	添付資料不備	0
M01	6	誤字・脱字	0
M01	7	記入漏れ	0
M01	8	その他	1
M02	1
M02

【図 4】



【図 5】

70

承認実績参照

確認対象

部署名: X支店Y営業部 72

担当者名: 鈴木太郎 74

承認対象: 76

実行 78

取消 80

【図 6】

70

承認実績参照

_ □ ×

確認対象

部署名: X支店Y営業部 ▼ 72

担当者名: 鈴木太郎 ▼ 74

承認対象: ▼ 76

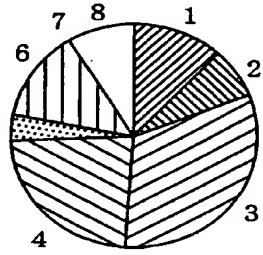
過去の承認実績

期間 ☐ 1ヶ月 ☒ 半年 ☐ 全て 82

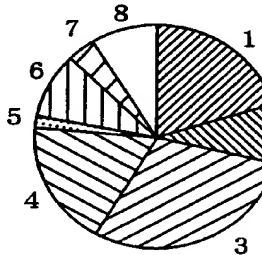
	担当者	部署
承認	78	1502
否認	28	201
1. 見積金額再検討	5	106
2. 納期再検討	2	68
3. 計算ミス	12	100
4. 製品番号／型番誤り	6	51
5. 添付資料不備	1	11
6. 誤字・脱字	5	63
7. 記入漏れ	0	15
8. その他	3	44

否認理由の割合

担当者



部署

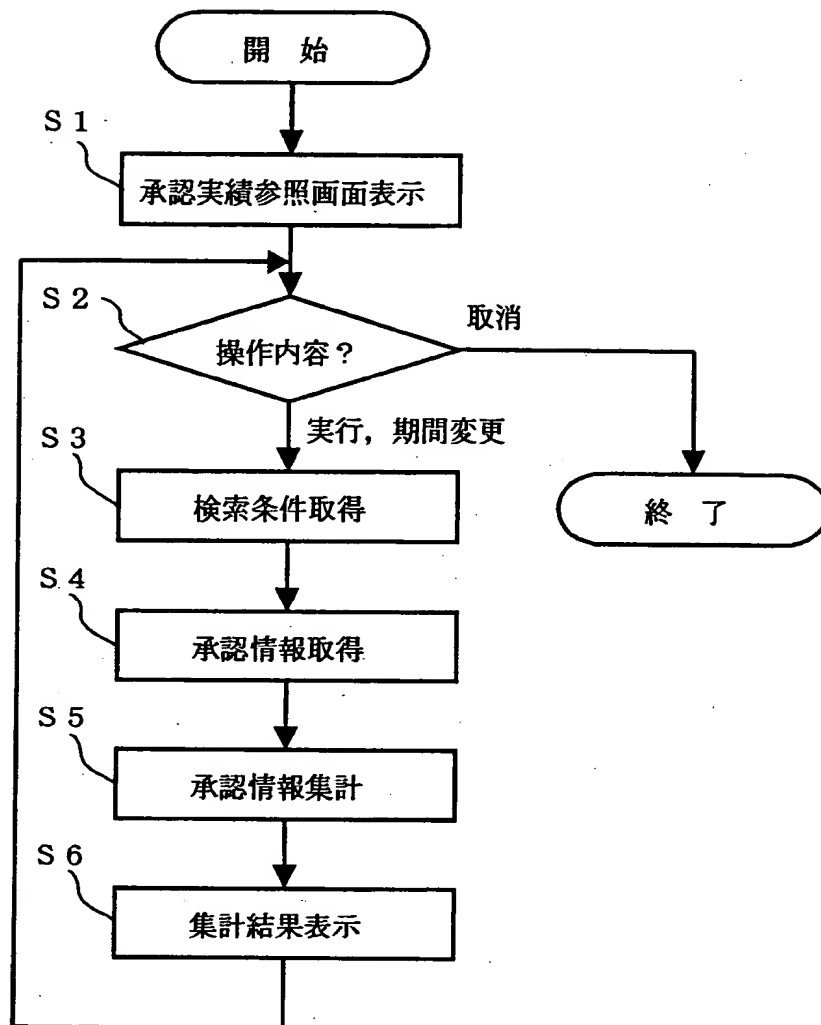


実行

取消

78
80

【図 7】



【図 8】

90

92

96

94

98 100

☐ 承認依頼処理

承認依頼内容

承認依頼件名: A工業株式会社向けB装置の見積り

承認依頼者名: X支店Y営業部 鈴木 太郎

承認者名: X支店Y営業部 佐藤 次郎

コメント: ご指摘の型番を修正しました

承認対象: 御見積書
顧客要求仕様書(参照)
納入スケジュール(参照)

92f

否認物件取り込み

承認対象の指定

92g

否認物件を再依頼する場合は、
「否認物件取り込み」ボタンで
否認物件を指定してください。

承認対象は「承認対象の指定」
ボタンで表示される画面にて、
追加/変更/削除できます

実行

取消

過去の承認実績

期間 ☐1ヶ月 ☒半年 ☐全て

依頼者

78 28 5 2 12 6 1 5 0 3

1502 201 106 68 100 51 11 63 15 44

部署

承認

否認

1.見積金額再検討

2.納期再検討

3.計算ミス

4.製品番号/型番誤り

5.添付資料不備

6.誤字・脱字

7.記入漏れ

8.その他

否認理由の割合

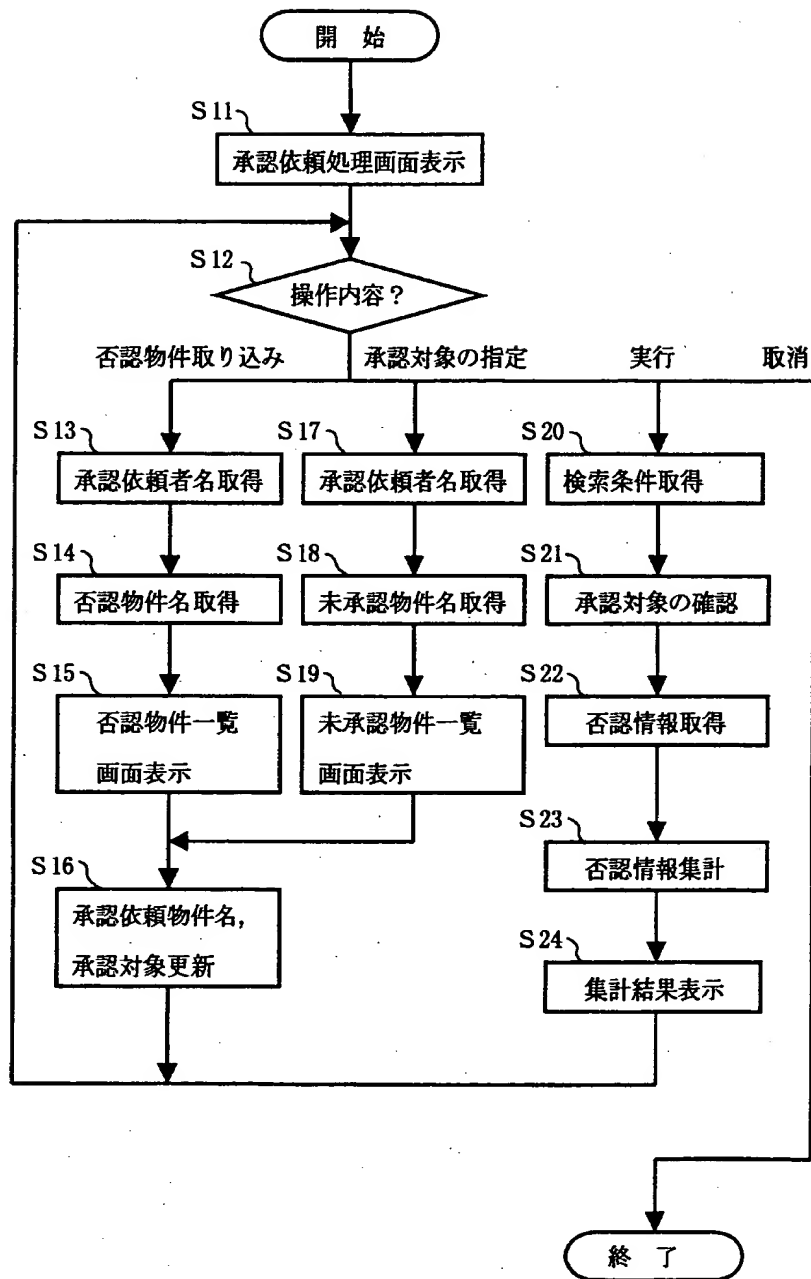
依頼者

部署

理由	割合
1.見積金額再検討	7
2.納期再検討	8
3.計算ミス	1
4.製品番号/型番誤り	6
5.添付資料不備	5
6.誤字・脱字	4
7.記入漏れ	3
8.その他	2

理由	割合
1.見積金額再検討	7
2.納期再検討	8
3.計算ミス	1
4.製品番号/型番誤り	6
5.添付資料不備	5
6.誤字・脱字	4
7.記入漏れ	3
8.その他	2

【図9】



【図 1 0】

110

否認物件一覧

物件名	否認日
A工業株式会社向けB装置の見積り	1999/09/29
D製作所株式会社向けE装置改造の見積り	1999/09/30

112

取り込み 114

取消 116

【図 11】

☐ 承認処理

承認依頼内容

承認依頼件名: A工業株式会社向けB装置の見積り

承認依頼者名: X支店Y営業部 鈴木 太郎

依頼回数 : 2回目

コメント : ご指摘の型番ミスを修正しました

承認対象 : 御見積書
顧客要求仕様書(参照)
納入スケジュール(参照)

承認結果

☒ 承認

☐ 否認

☐ 見積金額再検討

☐ 納期再検討

☐ 計算ミス

☐ 製品番号/型番誤り

☐ 添付資料不備

☐ 誤字・脱字

☐ 記入漏れ

☐ その他(下記理由)

前回の否認内容

☐ 見積金額再検討

☐ 納期再検討

☐ 計算ミス

☒ 製品番号/型番誤り

☐ 添付資料不備

☐ 誤字・脱字

☐ 記入漏れ

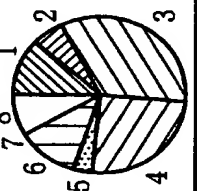
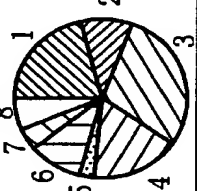
☐ その他(下記理由)

過去の承認実績

期間 ☐ 1ヶ月 ☒ 半年 ☐ 全て

承認者 ☐ 依頼者

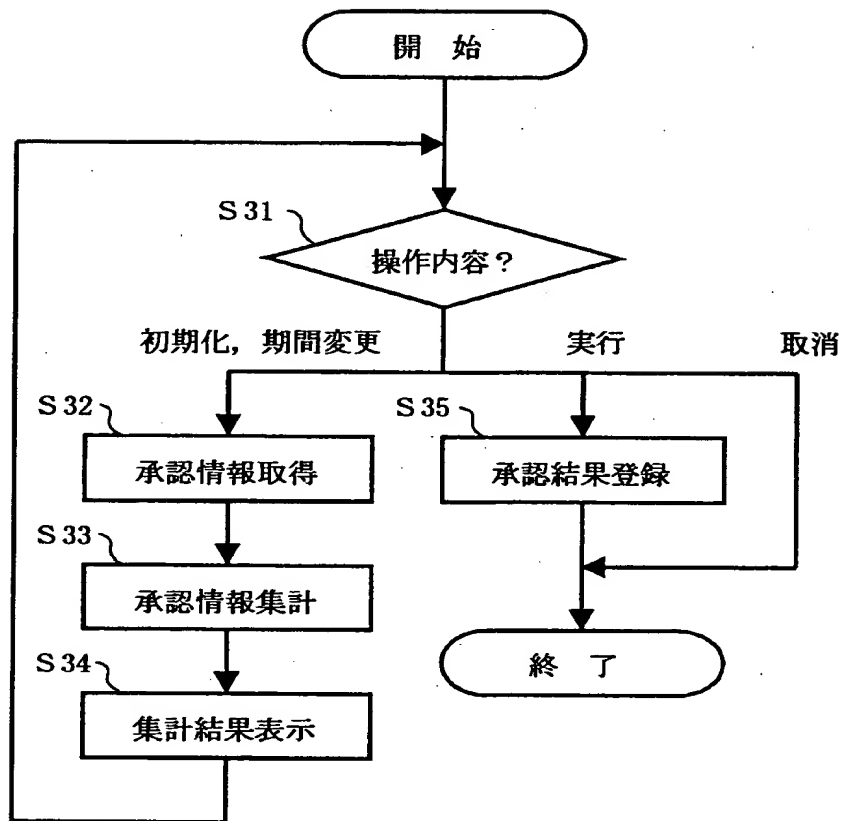
承認	否認	1. 見積金額再検討	2. 納期再検討	3. 計算ミス	4. 製品番号/型番誤り	5. 添付資料不備	6. 誤字・脱字	7. 記入漏れ	8. その他	否認理由の割合	依頼者	部署
78	28	5	2	12	6	1	5	0	3			
1502	201	106	68	100	51	11	63	15	44			

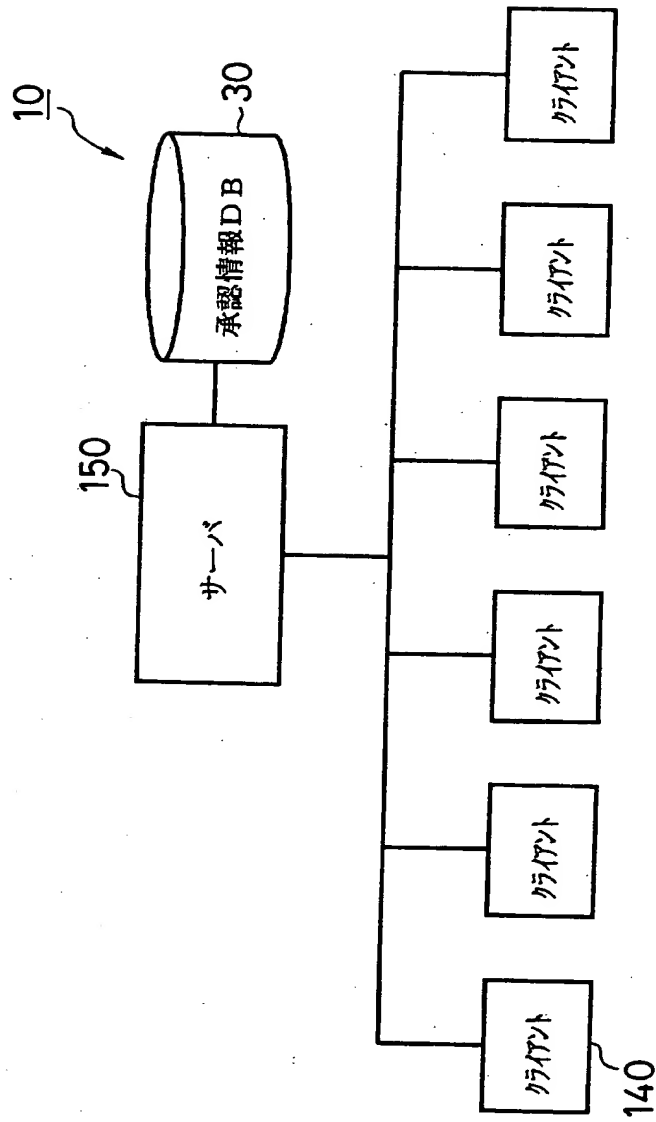
1 1

出 特 2000-3072540

【図 1 2】



【図 13】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 電子承認技術に係る承認作業の効率及び質を向上させる。

【解決手段】 承認者が承認依頼対象たる見積書等について承認若しくは否認を行なうときに、その承認結果を承認情報データベース30に登録する一方、承認依頼者が承認対象を作成若しくは修正等を行なうとき、又は、承認者が承認対象について承認若しくは否認を行なうときに、承認情報データベース30に登録された過去の承認結果を参照することで、承認依頼者が間違え易いミスを容易に把握できるようになる。そして、承認対象の作成若しくは修正等を行なう承認依頼者は、人的ミスの少ない承認依頼対象を作成若しくは修正できると共に、承認依頼対象承認を行なう承認者は、ポイントを絞ったチェックを行なうことができ、承認作業の効率及び質が向上する。

【選択図】 図4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社